

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web pageは
こちらから



第二回初任者研修（教育長講話・人権研修）

令和4年4月14日（木）第2回初任者・新規採用者研修に浦上弘明教育長、原田奈緒美副教育長、小山健治教育監、太田浩子事務局次長、教育政策課田頭正光参事が来所し、教育長から「教育の原点とは」と題して講話が行われました。

続いて人権教育課藤森優子指導主事より「人権について考える1 ～人権尊重の教育について～」と題して講義が行われました。



○教育長は、八尾市立中学校教員、八尾市教育委員会指導主事、八尾市立中学校校長、国立曽爾青少年自然の家の専門職員、大阪府立修徳学院職員など多様な経験を通じて得られた教育に関する心構えを、熱く語られました。

＜受講者の感想＞

- ・教育長がおっしゃっていた「明るく・元気に・笑顔で」簡単なように思えて働いているとなかなか難しいところでもあったと感じていたため、そういったことから改めて始めようと思いました。
- ・教育長の経験を交えた生徒との関わり方のノウハウは非常に参考になりました。自身が担当する生徒とのかかわり方を見直すことにもなりましたし、明日からまた反省すべきところは反省して失敗を恐れず日々挑戦していこうと思います。
- ・教育長のお話で一番印象に残ったのが、教師に一番必要なものは授業力だと言われたことです。教師という仕事において、一番長く行う仕事が授業であるので、その授業力によって子どもたちからの信頼も得られるということに感銘を受けました。

○人権教育課藤森指導主事からはスライド資料を示しながらペアワークも交え、「人権教育」の観点や、様々な人権課題について講義を行いました。人権の第一歩は毎日顔を合わせる児童生徒の状況をしっかり受け止めることからで、そのためにはできるだけ子どもたちと会話をし「気になること」があれば寄り添って背景を知る努力が必要です。

<受講者の感想>

- ・人権教育について考える中で、八尾に住む小中学生の現状や課題についても知ることができました。
- ・外国にルーツのある子どもがクラスにいるが、「人権は宝物」とおっしゃっていたように、傷つけることや奪うことのないよう取り組んでいきます。



受講記録は端末を使って入力。

通級による指導担当教員研修



令和4年4月14日（木）午前9時30分～午前11時、通級による指導担当教員研修を行いました。講義は本センター辻佳与子指導主事が行いました。市内の配置人数全員（小学校8名、中学校3名）の参加がありました。通級指導の実践的研修を行いました。

<受講者の感想>

- ・指導計画の書き方について改めて確認することができて良かった。
 - ・実践交流を通じて他校の様子を知ることができてとても参考になった。
 - ・PCAGIP（ピカジップ）法でのワークショップは実際に現場でも活用できそうである。
- ※PERSON CENTERED APPROACH GROUP INCIDENT PROCESS

新任支援学級担当教員研修

令和4年4月15日（金）午後3時30分～午後5時に新任支援学級担当教員研修を行いました。講義は本センター中嶋巨人指導主事が行いました。大阪府・八尾市の実態も交え支援教育の基礎についてスライドを使っての説明を行いました。



<受講者の感想>

- ・「困った子」は「困っている子」という視点で接していくことはとても大切なことだと感じた。一見困った行動であっても、必ず意味があり何かを訴えているということが分かった。
- ・子どもの良いところ、出来たことをいっぱい見つけて、いっぱい褒めていこうと思った。

さわやかルーム（適応指導教室）開級式



令和4年4月21日（木）さわやかルーム（適応指導教室）の開級式を行いました。所長の挨拶では、勇気をもって第一歩を踏み出すことの大切さを語りました。毎週水曜日のチャレンジ登校日以外は、送迎車（1日4便）等を使って児童生徒が通ってきます。通室児童生徒はチャレンジタイム（自学自習）の時間の合間に室内でゲームをしたり、中庭の芝生の上でボール遊びをしたりするなどして楽しんでいます。



校務支援システム（利用者・管理者）説明会



令和4年4月に校務支援システムの操作説明会を4回（利用者2回・管理者2回）行いました。説明は八尾市教育委員会指導主事が行いました。中学校の出欠席管理、成績管理、保健管理等を専用のシステムを使って行っています。重要なデータなので、高度なセキュリティ対策を行うとともに、安全なバックアップ体制をとっています。ただ、専用のシステムなので初めて使う場合は研修が必要となります。

SSW研修①

令和4年4月22日（金）にSSW研修会を行いました。講師は桃山学院大学准教授で大阪府SSWスーパーバイザーの金澤ますみさんです。テーマは「SSWとしてのアセスメントとプランニング～1年間を見通したケース支援のために～」でした。

※SSW（スクールソーシャルワーカー）

SSWは教職員の支援や支援人材と関係機関等とのネットワークによる児童生徒・保護者への支援体制の充実を図っています。本市においては現在9名が活動を行っています。



校長研修

校長研修会を令和4年4月28日（木）午前9時30分～午前11時30分に行いました。講師には上智大学奈須正裕教授を招聘し「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」とのテーマでオンライン（リアルタイム）で行いました。



高い成果を上げて世界から注目されてきた「日本型学校教育」ですが、ここへきて『正解（知識）の暗記に』比重が大きくなりすぎているとの指摘もなされています。「令和の日本型学校教育」を実現するために個別最適な学びと協働的な学びを一体的にとらえ、「同調圧力」にとられない、柔軟に教育環境を整え、「子どもが主体的に学びとる授業」をめざしていかなくてはなりません。そのために教師は児童生徒が学ぶためのツールとして ICT を有効に活用していくという内容のお話をされました。

令和4年5月6日（金）午後3時45分～午後5時に教育センターで講師等のための研修会を行いました。研修内容は「サービスについて」で、教育政策課古海裕土指導主事です。

この研修の対象者は八尾市内で教職経験のない常勤講師（未受講者を含む）で今年度は32名が受講しました。

＜受講者感想＞

・SNSなどの活用についてより厳重に注意しないといけないと思いました。SNSのいじめ問題なども目立ってきてるので子どもへしっかり指導していきたい。



教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は4月から5月に入った雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。



「指導と評価」（日本教育評価研究会）5月号

- ・特集1 これからの教師に求められる資質・能力
- ・特集2 心理的安全性のある学校・学級

「道徳教育」（明治図書）5月号

- ・特集 1人1台端末の道徳授業のアイデア
- ・徹底解説 1人1台端末を活用した道徳授業のつくりかた

こころの科学（日本評論社）No.223 5月号

- ・特別企画 性をめぐる子どもの臨床

こころの科学「そだちの科学」（日本評論社）No.38 2022年4月

- ・特集 子ども臨床の課題と難題

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）5月号

- ・特集1 「席替えを」をクラスづくりにどう活用するか
- ・特集2 マスク越しで子どもの思いをキャッチする

「特別支援教育」（文部科学省編集・東洋館出版社）令和4年春 No.85

- ・特集 一人一台端末等の有効的な活用
- ・巻頭言 「個才」の時代

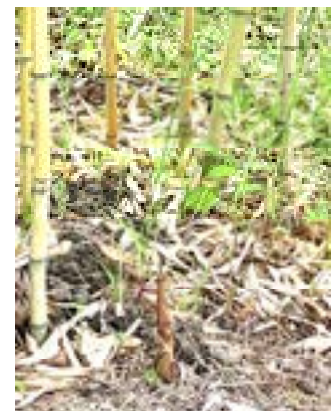


「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集、東洋館出版社）5月号

- ・特集 どう進める？1人1台端末時代のICT教育
～特別支援教育のよさを生かす～

「初等教育資料」（文部科学省編集、（株）東洋館出版社発行）5月号

- ・特集Ⅰ 学習評価の課題と改善①
- ・特集Ⅱ 「特別活動」自己実現につながる資質・能力を育む特別活動



竹林に小さなたけのこ

「中等教育資料」（文部科学省編集、学事出版）5月号

- ・特集 学校図書館を活用した授業づくり

教育科学「国語教育」（明治図書）5月号

- ・特集 AさせたいならBと言え！？ 子供を動かす「発問・指示」
- ・巻頭論文 「AさせたいならBと言え」が示す「発問・指示」の本質とは

教育科学「社会科教育」（明治図書）5月号

- ・特集 子どもの思考をアクティブにする 社会科授業の教材&発問づくり

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集、東洋館出版社）5月号

- ・特集 算数の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的実現

教育センターにカモが来所しました。もともと近所の川での目撃談はありましたが、「今日はどんな研修があるのかな？」とばかりに、午後から2羽来所しました。残念ながらこの日は研修がありませんでした。自転車を整列させるための黄色い線が気になったようで、しばらく眺めていました。自然豊かなところです。

